

交通バリアフリー教室の開催

急速な高齢化や身体障害者の社会参加の要請に適切に対応し、誰もが公共交通機関を円滑に利用して移動ができるためには、施設整備（ハード面）だけでなく、誰もが手助けしやすい環境づくり（ソフト面）が重要です。



視覚障害者擬似体験 その1

このため、沖縄総合事務局運輸部では、毎年、「交通バリアフリー教室」を開催し、健常者を対象として、高齢者、身体障害者の疑似体験や介助体験を行い、交通バリアフリーについての理解を深めるとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者や身体障害者等に対し、「お手伝いし



車イス利用体験 その1

ましょう」とごく自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー」を目指しています。

今年度の交通バリアフリー教室は、石垣市のバス会社が県内で初めて低床式路線バスを導入したことや、石垣市、石垣市社会福祉協議会等関係機関が交通バリアフリー教室に積極的であったことから、人権教育研究校に指定されている石垣市立八島小学校において、「総合的な学習」の一環として、九月二十六日に開催することとなりました。

数の方が参加しました。児童はアイマスクや白杖、車イスや高齢者疑似体験セットを使って低床バスに乗りし、体の不自由な人の疑似体験をしました。

明るく元気な児童も、体験時には「きつい」、「前が見えなくて怖かった」等感想を述べていました。児童が書いた作文の一部を紹介します。



視覚障害者擬似体験 その2

「今回バスで体験をして、本当に大変なことが何かを実感することができました。そして、この体験から私たちにできることは何かを考えることができました。私たちがひとりひとりが心のバリアを取

り除き、バリアを見つめ直して「お手伝いしようか」と気軽に声をかけられる雰囲気を作りたいから作っていきたいと考えています。「みんな」の中にはいろいろな「みんな」がいることをいつも心にとめ、この体験を生かして、介助してあげたいです。」

運輸部としても、今回の体験をとおして少しでも多くの人たちが交通バリアフリーについて理解を深め、今後の活動につなげていってほしいと考えています。



車イス利用体験 その2